

令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第7号

令和元(2019)年10月17日
栃木県農業環境指導センター

台風の影響による病害の発生拡大が懸念されます。予防防除を徹底しましょう！

予想期間 10月下旬～11月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生は少ない(平年比0%：ほ場率、株率)。(－)
 - ・ 向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策
- ・ 特に日照不足等で、株の軟弱徒長や樹勢低下が見られるほ場では発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場の管理に留意する。
 - ・ 現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、ベルコートフロアブル等を散布する。
 - ・ ほ場を良く観察し、初発を見逃さない。発生が見られたら、シグナム WDG 等を散布する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比44%：ほ場率、平年比38%：株率)。(－)
 - ・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策
- ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・ 気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで、作全体の化学農薬の散布回数を減らし、ローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。
 - ・ カブリダニ類(天敵)導入時はハダニ類が多いと失敗しやすいので、気門封鎖剤などを定期的に散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
 - ・ 気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
 - ・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考
- ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量は少ない(平年比3%：ほ場率、平年比4%：株率)。(－)
 - ・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策
- ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内の除草を行う。
 - ・ 低密度のうちにマッチ乳剤[シキイアザミウマ]等のIGR剤を散布する。
 - ・ 花を観察して、1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、ディアナSC等を散布する。
 - ・ 10月中旬までに開花が進んでいるほ場では、秋期のアザミウマ類の発生が多い傾向にあるので、注意する。
- (4) 備 考
- ・ [防除のポイントNo.19](#)、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 黄化葉巻病(TYLCV)

- (1) 発生予想 発生量： **多い**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量は多い(平年比320%：ほ場率)。(＋)
 - ・ 向こう1か月の気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策
- ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入と飛散を防ぐ。ハウスの開口部(出入り口窓、天窗)に0.4mm以下のネットを張り、特に出入り口は2重にする。
 - ・ 黄色粘着板を設置して媒介虫の捕殺と発生状況の把握を行い、コナジラミが見られた時はベストガード水溶剤、コルト顆粒水和剤等を散布する。
 - ・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ビニール袋などで密封し枯死させてから処分する。
- (4) 備 考
- ・ [防除のポイントNo.9](#)を、[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

5 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 10月第2半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並。(±)
 ・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・ 幼虫の齢期が進むと被害が大きくなる上に、薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

6 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	炭疽病	平年並	平年並	きゅうり	うどんこ病	平年並	やや多
	アブラムシ類	平年並	平年並		べと病	やや多	多
トマト	灰色かび病	少	やや少	野菜類	タバコガ類	やや多	やや多
	葉かび病	少	やや少		きく	白さび病	やや多
にら	白斑葉枯病	やや多	やや多		ハダニ類	やや多	多

台風19号に対する病害虫防除対策

- ★台風により冠水や浸水、風による作物の損傷があったほ場では、病害の拡大が懸念されます。速やかに排水対策を行い、薬剤散布を行いましょ。
- ★記録的な降雨量により、ほ場の過湿が長引くことが予想されます。施設栽培においては換気に留意し、予防的防除を心がけましょ。
- ★作物の被害残渣、流木等は感染源となる場合があるので、適切な処分を行いましょ。

秋の病害虫防除対策

○イネ縞葉枯病

- ・イネ縞葉枯病の県北部への拡大が確認されています。ほ場の再生稲（ひこばえ）は、媒介虫のヒメトビウソカノ増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早期の丁寧な耕起により、次年産の本病拡大を防ぎましょ。

○麦類種子伝染性病害

- ・近年、オオムギ斑葉病等の種子伝染性病害が増加しています。種子消毒を行うとともに適期には種ましましょ。

○ナシ黒星病（秋季防除）

- ・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょ。防除の際は周辺へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意しましょ。

★農薬は適正に管理し、正しく使いましょ！

★同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょ。

1か月気象予報（予報期間10月19日から11月18日 10月17日気象庁発表）

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	10%	20%	70%
降水量	20%	30%	50%
日照時間	50%	30%	20%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。